

令和2年度報告

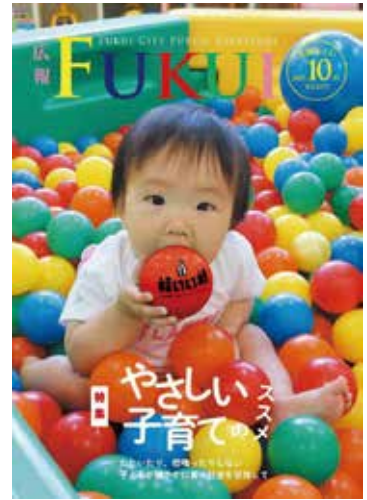
福井市子ども家庭センター 子育て支援室・相談室

副室長 野路 昌美

子育て支援室・相談室は、福井市委託事業として平成19年度に運営を開始してから、14年目を迎えました。今年度からは、新たに子ども相談・子育て支援事業として運営を行っています。



施設案内図



「広報FUKUI」10月号の表紙

【子育て支援室】

子育て支援室は、子育て親子の交流の場の提供と交流の促進、子育て相談や子育てに関する講座の実施、地域の子育て関連の情報提供など、親子・家庭・地域社会の交わりを作り出す場としての機能を担っています。今年度は、本来の開放型運営とは異なる方法での開所でした。利用人数制限と利用時間枠を設けた予約制運営を行い、親子が安心して過ごすことができるよう衛生管理の徹底に努めました。

※注1

<令和2年度利用状況>

総利用者数	子ども数	子ども/ 実利用者数	子ども/ 新規利用者数	子ども/ 実世帯数	開所 日数
6,104人	3,216人	624人	352人	478世帯	255日

<子ども年齢別利用状況(年度比較)>

子ども年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4~6歳児
令和元年度	32%	33%	16%	10%	9%
令和2年度	26%	34%	24%	7%	9%

各利用時間には、子どもの年齢などに応じた絵本の読み聞かせや手遊び、リズム体操などのプログラムを組込みました。また、同じ曜日、同じ時間枠を利用している親子同士のつながりが持てるように親子の様子を観察しながら働きかけを行いました。

《子育てに関する相談》

日常、親子が利用する中で、「イヤイヤがひどくなった」、「下の子を抱くと、上の子が抱っこを求めたり下の子をたたいたりする」、「後追いがひどくて家事ができない」、「夜泣きがひどくて困っている」、「気持ちの切り替えが難しい子へはどうしてあげると良いか」などの様々な相談を受けています。



利用者つながりの様子



親子プログラムの様子

私たち職員は、利用者から子どもの様子を聴き取りながら丁寧に対応するのは勿論のこと、必要に応じ、子どもの月齢や居住地区、就園状況などの生活経験を参考にできるよう、利用者同士の会話をつなぐ対応をしています。このような際の利用者同士のつながり合いは、子育ての困難さを共有したり、生活の工夫を伝えあったり、励ましあったりする仲間づくりにもなっています。

今年度は、多くの利用者が『子育ての負担感』についての気持ちを話す場面がありました。その言葉は短くも、深い内容の語りでした。私たち職員は、一人ひとりの利用者に声を掛け、耳を傾け、頑張りを褒め、ねぎらい、大変さに共感し、寄り添っていきました。

ある利用者は「外出自粛、学校休校、幼稚園休園、夫のテレワーク（子どもを静かにさせなくてははいけない）などにより、毎日自宅の部屋の中という同じ環境の中で、子どもが外に出たがって泣いたり、兄弟喧嘩をすることが激しくなったり、子どもとどう向き合ったらいいのか、どのように過ごしたらいいのか、悩み、限界状態になっていた」と話してくれました。また、ある利用者は「県外の実家に行くことや市内外の友人と会うことも出来ず孤独を感じ、自分の子育てや子どもの発達に不安ばかりが膨れ上がる状態だった」と語ってくれました。

雪のある生活を初めて体験した利用者らは「車を持っていないし、ベビーカーも動かすことが出来なかった」「雪があるから子どもが嫌がって歩かなかった」「子どもを抱いて歩いたけど、道を横断することが怖くて、家で引きこもり状態になっていた」などの心の内を話してくれました。一方、地元暮らしの利用者らも「雪の間、狭い家の中で長い時間過ごさなければならず、親子ともにストレスが溜まってきた」「子どもをおんぶして歩いて買い物に行って疲れた」などと生活の様子を話してくれました。利用者らのその語り始めはみな険しい表情でしたが、気持ちを話すうちに安堵の表情を見せてくれました。

子育て親子にとって、普段何気なく遊んだり、絵本を読んだり、お話をしたり、相談したりと、ここに来れば誰かがいるという場所が当所の子育て支援室でした。それは、人と人とのつながり合いや支え合いの場でもあり、私たち職員にとって、その役割機能の重要性を改めて考えさせられた1年でした。

《子育て講座、親子講座、親子プログラム》

利用者に関心を持ってほしい内容や親の子育て力を高められるような話題提供を行うために、専門の講師を招いた〈子育て講座〉や利用者同士が交流をしたり、親子のスキンシップを深めたりする〈親子講座〉を開催しました。そのほか、定期的に親子プログラム〈ふれあいあそび〉や〈おはなし会〉などを開催しました。〈季節の行事〉では、夏にはおまつりごっこ、冬には伝承遊び体験や豆まきごっこなど、季節感を取入れた活動を行いました。

＜子育て講座等の実績＞

講座／プログラム 項目	開催数(回)	組数(組)	人数(人)
子育て講座(学园内連携講座含む)	12	80	190
親子講座(ボランティア講師)	19	121	273
子育てサークル支援事業 はっぴいすmama	5	31	66
親支援事業 ほっとるーむ はぐはぐ	6	12	25
季節の行事	12	123	283
親子プログラム	59	652	1,367
地域支援活動(地域公民館/地域施設)	11	45	94
その他	8	55	120

《親支援事業「ほっとるーむ はぐはぐ」》

就学前の子どもの保護者や妊婦とその家族を対象に、子育ての不安感や孤独感、ストレスの軽減などを図るとともに親の今を受け止め、親としての成長をはぐくむことを目的としたグループ活動を行っています。10年目の継続事業です。ファシリテーターに臨床心理士を配置しています。今年度は計6回開催しました。参加者は子どもと離れ、「子育て中の気分転換、どうしてる?」、「夫婦や家族、子育て観が違うとき」などの各回設定するテーマや共通の話題につい



季節の行事「おまつりごっこ」



親子プログラムの様子



「はっぴいすmama」



「リトミック遊びを楽しもう」

て、安心できる空間で自由に語り合うことができました。

《子育てサークル支援事業「はっぴいすmama」》

県外から市内へ転入してきた利用者（母親）の子育ての困難さや不安を軽減するため、参加者同士の交流を深めたり、情報交換をして支え合ったりすることで、仲間づくりをして、子育てに喜びが持てるよう支援することを目的として実施しています。今回は、福井に暮らして数か月～3年程の方、昨年もこの事業に参加した方、県外出身の方が集まりました。

1回目は、自己紹介を行い、参加者同士が子育ての大変さを共感し、工夫していることを伝え合いました。

「知らない土地でのママ友づくりや子育てに関する情報交換をして、不安を解消していきたい」という気持ちを打ち明けてくれた参加者もありました。アンケートには「もっと話したい」「同じように頑張っている親がいるのを知り、自分だけではないと安心した」「気軽に話せる雰囲気、ママ友ができてうれしい」などの言葉が寄せられました。

2回目は、『おすすめの小児科、お出かけスポット、保育園などの入園時期や選び方、転勤族の就職活動』について情報交換をして交流を深めました。お出かけについては「子育て支援センターが感染症対策をしていて、予約制や家族数制限で密にならないことから、安全で一番のお出かけスポットである」という話題がありました。また、就職活動については、『ふくい女性活躍支援センターの「働くための出張相談会」』講座での情報が役立つという意見も出ていました。

3回目は、『福井の冬の過ごし方』について意見交換をしました。県外出身者らからは「融雪の水はベビーカーにかからないのか、子どもにかかっても安全なのか」「雪が降ったら道路はベビーカーで歩けるのか」「通園している園の駐車場は除雪されているか」などの疑問があがりました。福井暮らし経験者らからは「雪

の時の子どもとの移動は車があると便利」「車の中には先が平たいスコップが必需品」「子どもの防寒具の選び方のコツ」などについて伝え、地域生活の知恵や情報の共有を図りました。

4回目では、雪の生活体験がない参加者が、雪が降った時の親子の過ごし方や生活の仕方について不安を示し、雪の日の過ごし方についてさらに情報交換を行いました。雪の日の大変さだけではなく、楽しみ方も話し合うことができました。

最終回では、参加者らは連絡を交わし、その後も当所を利用しながら交流を深める様子がありました。さらに、周りの利用者自ら声をかけて会話を築き、子育ての情報交換をするなど、利用者同士の笑顔が広がる働きかけを楽しんでいる様子が見られました。

はっぴいすmamaを始めて5年、新たに福井での暮らしを始めた子育て親子の生活の一步を支え合える事業として根付いてきたのではないかと感じています。

《学園内連携子育て講座》

短大や高校の教員を講師に招いた子育て講座を行いました。学生や生徒らの参加もありました。この日のために練習や準備を教員と共に重ねてきたであろう彼女らの様子に、参加親子は、お姉ちゃん先生と親しみをもって講座を楽しんでいました。

開催日	テーマ/講師
8月12日(水)	「かほるママのリクエストコンサート」 仁愛女子高等学校 高橋かほる氏
8月13日(木)	
10月30日(金)	「ミニコンサート」 仁愛女子短期大学 坂本 流美氏
11月29日(日)	「えいごであそぼう」 仁愛女子短期大学 野本 尚美氏
12月6日(日)	「いろいろな音を楽しもう」 仁愛女子短期大学 木下 由香氏
12月20日(日)	「おはなし会」 仁愛女子短期大学 松川 恵子氏
3月6日(土)	「わらべうた」 仁愛女子短期大学 坂本 流美氏



「大型絵本と音あそび」



「えいごであそぼう」
仁愛女子短期大学連携



「かほるママのリクエストコンサート」
仁愛女子高等学校連携



「パパも一緒に
ミュージックケア」

《短大生の体験学習》

幼児教育学科2回生計100名の学生が体験学習を11～1月に行いました。親子とのふれあいや親子の様子観察、各自が準備してきた絵本の読み聞かせや手遊びを行いました。体験を終えた学生らは、開始前の緊張した表情から一変し、凛とした姿勢と豊かな笑みがあふれていました。親子との時間が学生らにとって貴重なものであったことがうかがえました。

《子育て支援ボランティア「た・ま・ごの会」の活躍》

た・ま・ごの会では、会員が各々の得意する活動を行うことを基本にしています。手作業が得意な会員は季節の行事に使用する小物づくりを、体を動かすことが得意な会員は講座のサポートなどのべ97名が活動しました。また、マスク作りや消毒用のぞうきん作りでも、当所を支援いただきました。



「フィンガーペインティング」



「ひっかき絵」
子育て支援ボランティア「た・ま・ごの会」

【相談室】

相談室では、18歳未満の子どもの養育に関する相談に応じています。また、相談の内容が多様化複雑化していることもあり、心理担当職員を配置し対応を行っています。

そのほか、市要保護児童対策地域協議会や乳幼児支援関係機関会議への参加、関係機関と連携した援助の検討や情報共有を行いました。

＜令和2年度相談室対応件数＞

子ども相談	総数(件)	対応方法(件)				開所日数
		電話	面接	訪問	その他	
	1,271	884	333	43	11	308日

＜相談総数の内訳:主訴＞

主訴	養護	障がい	性格行動	不登校	適性	育児しつけ
割合	37%	6%	18%	5%	1%	33%



子育て支援室と相談室の掲示物
「体罰によらない子育て」(厚労省)



相談/面談室



福井市子ども家庭センター
子育て支援室・相談室
ホームページ(PC版)

※注1) 令和2年3月2日～5月31日福井市地域子育て支援センター臨時休所。令和2年6月1日～令和3年3月31日予約制(時間および人数制限) 運営方法を福井市の指導のもと実施。